平成30・31年度　北海道立教育研究所プロジェクト研究

教育活動の質の向上を図る
カリキュラム・マネジメントに関する研究

カリキュラム・マネジメント　ガイドブック

【小学校編】

北海道立教育研究所

「発刊に寄せて」

変化の激しい社会の中で、主体的に学んで必要な情報を判断し、よりよい人生や社会の在り方を考え、多様な人々と協働しながら問題を発見し解決していくために必要な力を、児童生徒一人一人に育んでいくためには、あらゆる教科等に共通した学習の基盤となる資質・能力や、教科等の学習を通じて身に付けた力を統合的に活用して現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を、教育課程全体を見渡して育んでいくことが重要です。

このため、各学校においては、教科等横断的な学習を充実することや、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うことが求められており、これらの取組の実現のためには、学校全体として、児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育内容や時間の配分、必要な人的・物的体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善などを通して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努めることが大切となっています。

本研究所では、全国教育研究所連盟課題研究として、平成30年度と令和元年度の２か年で「教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントに関する研究」を行い、理論や実践等について動画資料や本ガイドブックに研究成果をまとめました。

特に、本ガイドブックでは、カリキュラム・マネジメントについて、その必要性や小・中・高等学校における実践事例、キャリア・ステージに応じた役割等を掲載しておりますので、今後、道内の各学校で積極的に活用され、カリキュラム・マネジメントの取組が一層充実することを期待しております。

結びに、本ガイドブックの作成に御助言をいただいた有識者の皆様、並びに研究協力校の皆様に対して深く感謝申し上げます。

令和２年（2020年）３月

北海道立教育研究所長　北　村　善　春

平成30･31年度北海道立教育研究所プロジェクト研究
教育活動の質の向上を図るカリキュラム･マネジメントに関する研究

「カリキュラム・マネジメント　ガイドブック」目次【小学校編】

巻頭言　「発刊に寄せて」

Ⅰ　求められる背景

1 「社会に開かれた教育課程」の実現とカリキュラム･マネジメント

2 新たな教育課題等への対応

3 カリキュラム･マネジメントの必要性と、学校評価との関連付け

Ⅱ　カリキュラム・マネジメントの定義

1 カリキュラム･マネジメントの基本的な考え方

2 本道のカリキュラム･マネジメントの課題

Ⅲ　カリキュラム・マネジメントの進め方（手順）

1 教科等横断的な視点による教育内容の組立てはどう進めるの？

2 実効性のあるPDCAサイクルの確立に向けてどうすればいいの？

3 人的、物的な体制の確保はどう進めるの？

4 カリマネを通じて校内研修を充実するにはどうすればいいの？

5 組織運営の工夫改善はどう進めるの？

Ⅳ　カリキュラム・マネジメントの実践例＜校種別＞研究協力校

1 教科等横断的な視点による教育内容の組立て
(1) 組み立てる際に重視する観点
(2) 具体の取組
(3) 日常の授業で意識すること

2 PDCAサイクルの充実
(1) 教育課程の編成に係る工夫改善
(2) 教育課程の実施に係る工夫改善
(3) 教育課程の評価･改善に係る工夫改善

3 人的、物的な体制の確保

（1）具体の取組

（2）留意点等

4 カリキュラム・マネジメントに関する校内研修の充実

（1）具体の取組

（2）留意点等

5 組織運営の改善

（1）具体の取組

（2）留意点等

Ⅴ　カリキュラム・マネジメントのキャリア・ステージに応じた役割

1 管理職

（1）カリキュラム・マネジメントの充実に向けて心掛けていること

2 ミドルリーダー

（1）カリキュラム・マネジメントの充実に向けて心掛けていること

3 若手教員

（1）カリキュラム・マネジメントの充実に向けて心掛けていること

Ⅵ　研究協力校一覧

・千歳市立緑小学校
・江別市立江別第一小学校
・北広島市立西部中学校
・江別市立江別第三中学校
・岩見沢東高等学校
・野幌高等学校

Ⅰ－１　「社会に開かれた教育課程」の実現とカリキュラム・マネジメント

１　「社会に開かれた教育課程」の実現

新学習指導要領では、今回の改訂の理念を明確にし、社会で広く共有されるよう、新たに前文を設け、その中で「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことについて次のように示しました。

> 教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという「社会に開かれた教育課程」の実現が重要となる。

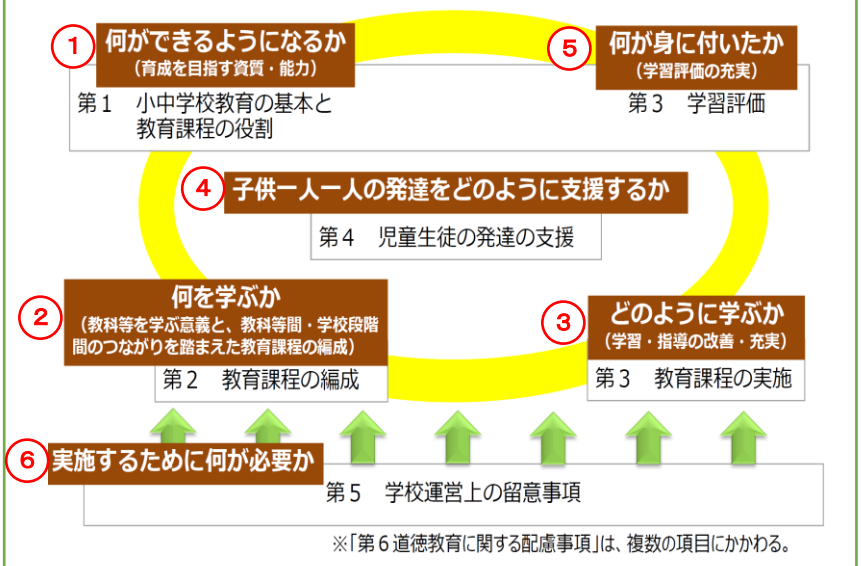
２　教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出すカリキュラム・マネジメント

平成28年12月の中央教育審議会答申では、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、学習指導要領等が、学校、家庭、地域の関係者が幅広く共有し活用できる「学びの地図」としての役割を果たすことができるよう、下の表及び図のとおり、６点にわたってその枠組みを改善するとともに、各学校において教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出すカリキュラム・マネジメントの実現を目指すことなどが求められました。

表：「学びの地図」としての学習指導要領総則の枠組みの改善

①	何ができるようになるか（育成を目指す資質・能力）
②	何を学ぶか（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）
③	どのように学ぶか（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）
④	子供一人一人の発達をどのように支援するか（子供の発達を踏まえた指導）
⑤	何が身に付いたか（学習評価の充実）
⑥	実施するために何が必要か（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）

図：学習指導要領総則を踏まえたカリキュラム・マネジメントの実施



（文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室作成の資料より）

キーワード

- 学習指導要領　前文
- 社会との連携及び協働
- 学びの地図

関係資料

カリキュラム・マネジメントのおさえ

Ⅰ－２　新たな教育課題等への対応

中央教育審議会答申で示された教育課題

「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」（中央教育審議会、平成27年12月）では、次のような教育課題の例とその対応が示されており、カリキュラム・マネジメントは、学習指導要領が目指す理念の実現のための対応として挙げられています。

我が国の子供たちの課題

・判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることについて弱い面があること
・自己肯定感や学習意欲、社会参画の意識等が国際的に見て低いこと

対応　→新しい時代の子供たちに必要な資質・能力を育むために、教育活動を更に充実し、子供の自信を育み能力を引き出す。

対応　→成熟した現代社会において、新たな価値を創造していくためには、一人一人が互いの異なる背景を尊重し、それぞれが多様な経験を重ねながら、様々な得意分野の能力を伸ばしていく。

今後の社会の変化

・グローバル化、情報通信技術の進展など

対応　→自立した人間として、他者と協働しながら、新しい価値を創造する力を育成する観点から求められる資質・能力を育む。

帰国・外国人児童生徒等の増加等

・帰国・外国人児童生徒等の増加や母語の多様化、学校への在籍における散在化、集住化の進展

対応　→国内の学校生活への円滑な適応や日本語指導などについて、個々の児童生徒の状況に応じたきめ細かな指導を行うための体制整備を推進する。

学習指導要領が目指す理念の実現

・教育課程全体を通した取組を通じて、教科横断的（※）な視点から教育活動の改善を行っていくこと
・学校全体としての取組を通じて、教科等や学年を超えた組織運営の改善を行っていくこと

対応　→教育活動や組織運営など、学校全体の在り方の改善において核となる教育課程の編成、実施、評価及び改善という「カリキュラム・マネジメント」の確立が必要である。

キーワード

・チームとしての学校
・教科横断的（※）な視点から教育活動の改善
・教科等や学年を超えた組織運営の改善

関係資料

カリキュラム・マネジメントのおさえ

（注：本答申においては「教科等横断的」ではなく、「教科横断的」と表記されている。）

Ⅰ－３　カリキュラム・マネジメントの必要性と、学校評価との関連付け

１　カリキュラム・マネジメントの必要性

各学校においては、児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

（学習指導要領　第１章第１の４）

このことについて、学習指導要領解説総則編では、次のとおり説明されています。

各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。以下同じ。）、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実することや、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うことが求められる。

これらの取組の実現のためには、学校全体として、児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育内容や時間の配分、必要な人的・物的体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善などを通して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努めることが求められる。

２　カリキュラム・マネジメントの実施と学校評価との関連付け

各学校においては、校長の方針の下に、校務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うよう努めるものとする。また、各学校が行う学校評価については、教育課程の編成、実施、改善が教育活動や学校運営の中核となることを踏まえ、カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施するよう留意するものとする。

（学習指導要領　第１章第５の１のア）

このことについて、学習指導要領解説総則編では、次のとおり説明されています。

カリキュラム・マネジメントの実施に当たって、「校長の方針の下に」としているのは、学校の教育目標など教育課程の編成の基本となる事項とともに、校長が定める校務分掌に基づくことを示しており、全教職員が適切に役割を分担し、相互に連携することが必要である。その上で、児童生徒の実態や地域の実情、指導内容を踏まえて効果的な年間指導計画等の在り方や、授業時間や週時程の在り方等について、校内研修等を通じて研究を重ねていくことも重要であり、こうした取組が学校の特色を創り上げていくこととなる。

キーワード

・教育の目的や目標の実現
・教育活動の質の向上
・教職員が適切に役割を分担

関係資料

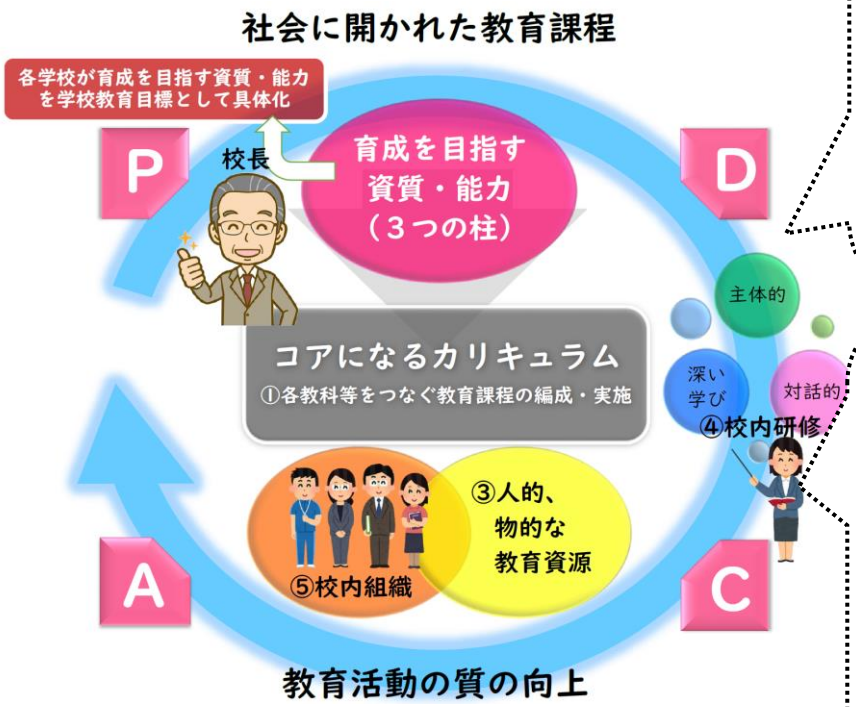
カリキュラム・マネジメントのおさえ

Ⅱ－１　カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方

本研究における「カリキュラム・マネジメント」の定義

本研究では、カリキュラム・マネジメントを「子どもや学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」とおさえ、研究を推進することにしました。

１　本研究の構造図



「カリキュラム・マネジメント」イメージ

左の図は、本研究の
①教科等横断的な視点による教育内容の組立て
②ＰＤＣＡサイクルの確立
③人的、物的な体制の確保
④カリキュラム・マネジメントに関する校内研修の充実
⑤組織運営の工夫改善
を図式化したものです。

各学校では、「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を確実に育成するため、校長を中心に、校内組織や教育資源を基盤として、カリキュラムをデザインし、ＰＤＣＡサイクルを確立するなどして不断に見直すことで教育活動の質の向上につなげることが重要です。

２　先行研究では・・・

○　本研究所では、平成８年度に「教育目標の具現化に関する研究」を研究主題として、教育目標を具現化するための学校経営の構造や教育課程の経営、組織・運営、具現化状況を把握する評価の在り方について研究しました。その中では、

・教育目標の具現化を課題解決過程ととらえ直し、どのように課題解決を図るかの「判断」を明確にするという観点から、具体化を推進するマネジメント・サイクル（目標―計画―実施―評価―改善）を提起したこと

・教育目標の具現化を図るためには、学校経営組織を年度の重点教育目標の実現を志向する課題解決型の組織へと改善すること

などについて示されています。

３　学習指導要領に示されたカリキュラム・マネジメントの定義

各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。以下同じ。）、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実することや、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うことが求められる。これらの取組の実現のためには、学校全体として、児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育内容や時間の配分、必要な人的・物的体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善などを通して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努めることが求められる。

このため総則において、「児童（生徒）や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努める」ことについて新たに示した。

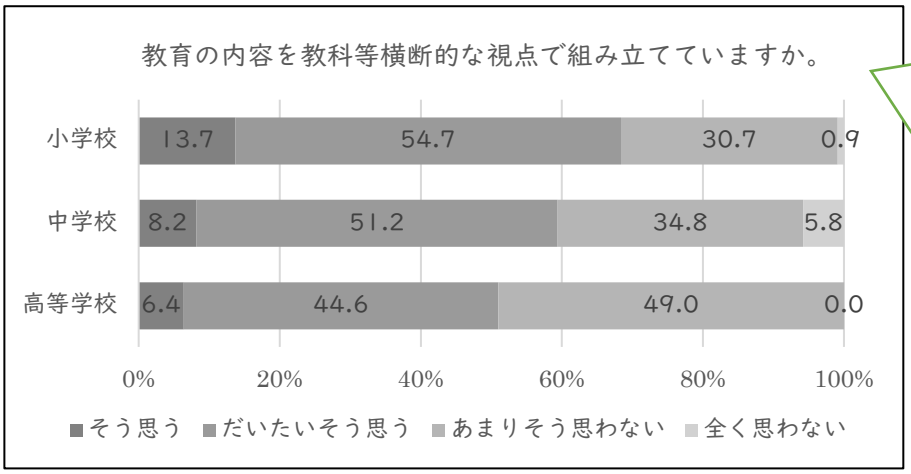
（小学校（中学校）学習指導要領解説　総則編）

Ⅱ-2　本道のカリキュラム・マネジメントの課題

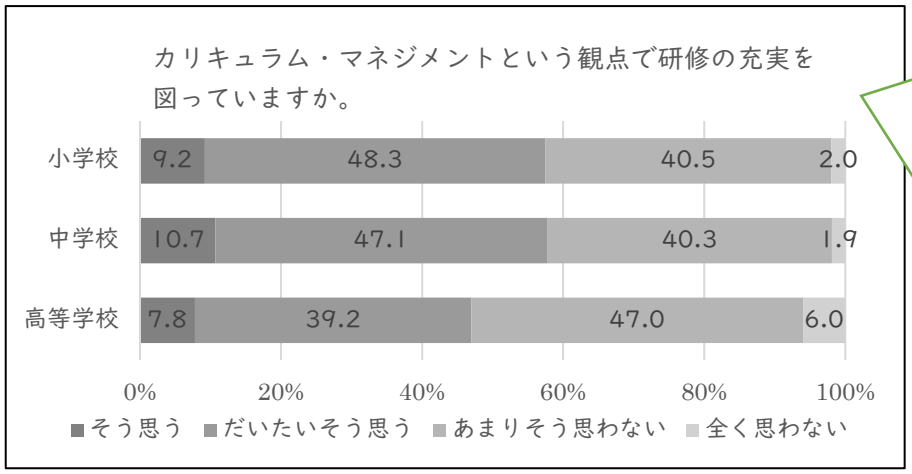
はじめの一歩

本研究において、各学校のカリキュラム・マネジメントの実態を把握するため、平成 30 年度にアンケート調査を実施しました。

その結果、①教科等横断的な視点による教育内容の組立て、②カリキュラム・マネジメントという観点による研修の充実、③教育課程に必要な人的、物的な体制の確保及びその改善について、否定的な回答をした教員が多く、本道のカリキュラム・マネジメント推進上の課題の一つであることが分かりました。

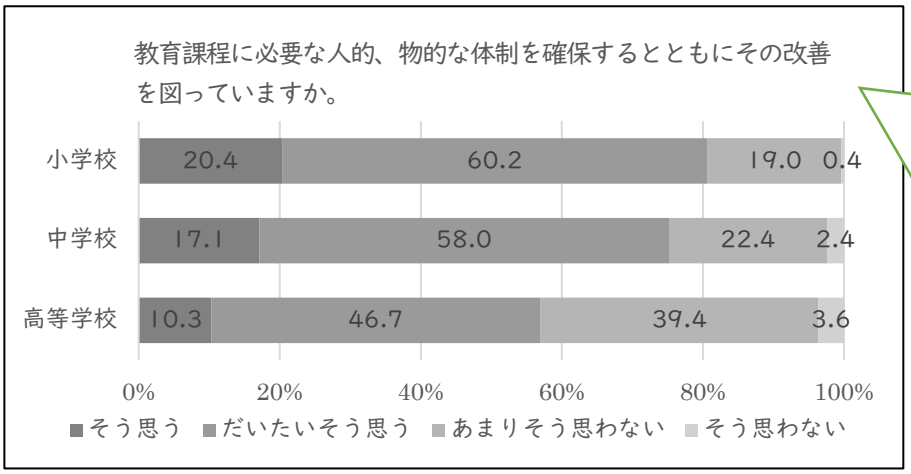


特に、中学校、高等学校では教科担任制になることから、他教科等との関連付けを図ることなどに課題を感じていることがうかがえます。



校内研修は、各学校において計画的に（P）実施（D）していることと思います。

しかしながら、研修の評価（C）、改善（A）を図ることなどに課題を感じていることが考えられます。



学校や地域の実情によるものの、校内の教材・教具の整備をはじめ、地域人材や教育資源の発掘、確保、改善などに課題を感じていることがうかがえます。

（平成 30･31 年度北海道立教育研究所プロジェクト研究「学校におけるカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」アンケート調査（道立教育研究所実施））

Ⅲ-１　教科等横断的な視点による教育内容の組立てはどう進めるの？

はじめの一歩

平成30年度に本研究所が実施したアンケート結果から、本道の実態として、「教科等横断的な視点で教育内容を組み立てること」について課題意識を抱える学校が多いことが分かりました。また、この傾向は、校種が上がるほど強くなること、キャリアステージによる差が見られることも明らかになりました。教科等横断的な視点で教育内容を組み立てるためには、学校として児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にする必要があります。

Point

・身に付けさせたい資質・能力を意識して各教科等の関連付けを図りながら教育課程を編成していますか。
・学習効果の最大化を図るためにカリキュラム・マネジメントを実践していますか。

○　現状分析から児童生徒に身に付けさせたい資質・能力の育成を重点にした取組

例１「身に付けさせたい資質・能力」から教科等横断的な視点による教育内容を組み立てた実践

課題の共有

・児童生徒の読解力や語彙力に課題
・生涯に渡り学び続ける人材の育成

身に付けさせたい資質・能力
「言語能力」
「主体的に学びに向かう態度」

具体的な取組

「１人１冊国語辞典の活用」
・語彙を増やし、各教科等の基盤となる言語能力を育成
・全ての教科等で自主的に国語辞典を活用できる環境づくり

成　果

・「調べる」ことの習慣化
・研修による活用法の深化
・ＰＴＡの協力
など

例２「○○教育」から教科等横断的な視点による教育内容を組み立てた実践

課題の共有

・児童生徒にとって身近に活火山があり、噴火の際の対応について不安がある（地域の要請）。

身に付けさせたい資質・能力
「自ら危険を予測して的確に判断し、身を守るための行動をとることができる力」
（防災意識の醸成）

具体的な取組

社会科（第４学年）
(3) 地域で過去に起きた自然災害や自然災害から人々を守る活動についての学習

理　科（第５学年）
Ｂ　生命・地球
(4) 土地のつくりと変化
ア（ウ）土地は火山の噴火によって変化すること（自然災害含む）

防災教育
「総合的な学習の時間」を中心とした取組

総合的な学習の時間
学校行事等
（地域の防災センター等と連携）
第４学年
○被災時の疑似体験（炊飯体験等）
第５学年
○被害者救助の在り方（ＡＥＤ等）
第６学年（修学旅行）
○噴火についての学習

例１は、児童生徒に「身に付けさせたい資質・能力」を具体化した上で、重点を言語能力と主体的に学びに向かう態度の育成に定め、「国語辞典」というツールを介した教科等横断的な取組を示したものです。例２は、児童生徒を取り巻く環境から「身に付けさせたい資質・能力」を主体的に行動する態度の育成に定め、総合的な学習の時間を中心とした「防災教育」について各教科等の内容を関連付けた取組を示したものです。
どちらも「身に付けさせたい資質・能力」を育むために、各教科等とのつながりを整理しています。各教科間を単純な内容の関連だけでなく、ねらいに応じて結び付けることが重要です。

関係資料

教科等横断
（紙資料）

教科等横断
（動画）

Ⅲ－２　実効性のあるＰＤＣＡサイクルの確立に向けてどうすればいいの？

はじめの一歩

平成30年度に本研究所が実施したアンケート結果では、「教育課程のＰＤＣＡサイクルと組織体制が確立していますか」という質問に対し、約８割の教職員が肯定的な回答をしましたが、「評価から改善につなげることが難しい」といった声も聞かれました。ＰＤＣＡサイクルの確立に向けては、教職員それぞれがキャリア・ステージに応じて、担当業務の評価・改善を行うことが大切です。

Point

・多面的・多角的な評価方法を設定していますか。
・評価結果に基づいたマネジメントサイクルを確立していますか。
・全教職員の共通理解の下、教育課程の評価・改善を行っていますか。

○　カリキュラム・マネジメントのＰＤＣＡサイクルを実効的なものにするための工夫

例　教育活動の質の向上に向けて、教職員が役割分担し、評価・改善を図っている例

管理職

児童生徒の実態から「伝え合う力の育成」を重点目標に掲げています。

全教職員の共通理解の下、教育課程を編成できるよう、２学期に各種データ等を示した上で次年度の経営方針を示しています。

学校評価に加え、教職員による簡便なアンケートを実施しています。結果を基に業務や行事の精選をするなど、一年を通して改善を図ります。

学期ごとに単元テスト等の結果を集計し、補充学習等のサポート体制を整備します。

毎月の生徒指導交流会では、継続すべき取組や改善すべき点を明確にして話し合い、今後の方向性について教職員間で共有します。

教職員の共通理解を図る場を設定するのが私の役割です。

ミドルリーダー

若手教員

机間指導や児童生徒の振り返り、チャレンジテスト及び単元テスト等の結果を活用し、授業改善に役立てています。

上の例において、管理職は、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を具体化し、共有を図った上で、年間を見通した教育課程の評価・改善を行っています。ミドルリーダーは、学期・単元レベルで評価・改善を行うとともに、話合いの場を設定し、教職員間で共通理解が図られるよう工夫しています。若手教員は、授業レベルで評価・改善を意識しています。このように、教職員が役割分担し、様々なレベルで評価・改善を図ることが重要です。

また、客観的なデータの分析や教職員による児童生徒の実態や指導方針についての話合い、児童生徒による授業評価など、多面的・多角的な評価方法を設定することが大切です。

関係資料

新年度経営方針（紙資料）

学習指導の評価（紙資料）（word）（pdf）

教科等横断（動画）

Ⅲ－３　人的、物的な体制の確保はどう進めるの？

はじめの一歩

平成30年度に本研究所が実施したアンケートから、本道の実態として、「教育課程に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていますか」という質問に対し、約８割の教職員が肯定的な回答をしているものの、「地域の教育資源や外部人材の一層の活用」「地域と連携した学習活動の確立」などに課題があるという声が聞かれたことから、外部の人的、物的資源について情報を蓄積し、それらの資源を教育活動に効果的に活用することが大切です。

Point

・校内の教材・教具の整備状況を把握していますか。
・地域の教育資源や学習環境などについて客観的かつ具体的に把握していますか。
・人的又は物的な体制の確保のみならず、その充実を組織的に図っていますか。

○　人的又は物的な資源の可視化

○○中学校　ひと・ものリスト（例）

教科・領域等	場所	人	もの	連絡先	引継ぎ事項等
総合的な学習の時間 ・地域探検 ・職業体験 理科 ・植物の観察	○○農園	○○さん	・ミニトマト ・稲作	○○市○○町○ □□－□□□□	・実習費が必要 ・○○の教員が担当 ・理科（生物）の植物の観察との関連も可 ・ジャージ、軍手が必要
国語 ・読書活動	・○○図書館	○○課主任 ○○さん （司書教諭の免許所持）	・図書全般 （教科書に係る図書が多数所蔵されている）	○○市○○区… □□－□□□□ …・・・@・・・.jp	・ビブリオバトルを主催 ・ビブリオバトルに参加すること ・読み聞かせに係る指導も可
・発表活動（プレゼンテーション）	・ＮＰＯ法人○○	ＮＰＯ法人○○代表○○さん（元アナウンサー）	・スピーチ、プレゼンに係る講義資料	○○市□□区… □□－□□□□ …・・・@・・・.jp	・ボイストレーニングを含むスピーチ全般に係る指導可 ・プレゼン指導も可
理科 ・地層	○○山	○○山ボランティアガイド	○○山の資料	○○支所 □□－□□□□	・・・・・・・
		○○大学 ○○教授	岩石の標本	○○大学 ○○研究室	・プロジェクター、スクリーンが必要

教科等の教育内容（学習活動）を関連させ、教育資源を一覧で整理しています。

担当教員へ円滑に引継ぎができるよう、留意点等を記入しています。

上の例は、「ひと・ものリスト」を活用して、外部の人的資源や物的資源についての情報を蓄積し、それらの資源を教育活動に効果的に活用するようにしているものです。
教育資源のリスト化に当たっては、担当教員へ円滑に引き継ぐことを念頭に作成することが大切です。
特に、外部人材との打合せの方法や教育活動に必要な物品等を具体的に記載し、随時更新しながら組織的に活用することが大切です。

関係資料

地域人材（紙資料）
（キャリア学習 word）　（キャリア学習 pdf）　（アンケート Excel）　（アンケート pdf）
（概要 word）　（概要 pdf）　（会場図 Excel）　（会場図 pdf）

人的・物的な体制（動画）

Ⅲ-４　カリマネを通じて校内研修を充実するにはどうすればいいの？

はじめの一歩

平成30年度に本研究所が実施したアンケート結果では、「カリキュラム・マネジメントという観点での研修の充実」について課題意識を抱える学校が多いことが分かりました。管理職のみならず、全教職員がカリキュラム・マネジメントの必要性を理解し、日々の授業や年間指導計画の在り方等について、評価・改善を図りながら校内研修を積み重ねていくことが大切です。

Point

・校長のリーダーシップの下、校内研修の実施計画を整備していますか。
・教職員の自律的、主体的な意欲を尊重した研修を目指していますか。
・研修チームを設けるなどして組織的・継続的な研修が行われていますか。

○　校内研修推進アクションプランの実施と評価

校内研修に係る課題	具体的な取組				取組の評価		備　考
	何を	だれが	いつ	どうする	いつ	どのように	
校内研修が活性化しない	協働意識の高揚	部長	６月	研修プラン５の実施	２月	年度末アンケート	研修部内で事前にファシリテーター体験の実施
	成果と課題の共有	部長	随時	実践内容の広報 成果物等の可視化	随時 ２月	教職員の取組内容や研修意欲の変容 年度末アンケート	
研究協議で意見が出ない	授業後の研究協議	部長	６月 10月	指導案拡大シートの活用	10月	グループ協議で見られた話題の深まりや記入内容等の変容	
	参観や協議の視点の共有	全教職員	公開授業時	授業参観チェックリストの活用	研究協議終了時	発言内容や協議の深まり	
校内研修の時間が確保できない	短時間で終わる研修の実施	○○先生	４月	教職員のニーズに応じたミニ研修の実施	研修終了後	アンケートや参加者への聞き取り	
	研修機会の確保	部長 教務主任 教務部長	８月 12月	長期休業を活用した研修の実施（教務主任や教務部長との連携）			

組織的・継続的な研修になるための具体的な取組について記入する。

上の表は、校内研修に係る課題を整理し、課題の改善のための具体的な取組について、「何を」「だれが」「いつ（いつまでに）」「どのように」を明確にして校内研修を効率的に実施、評価できるようにするためのものです。

校内研修の充実を図るためには、「子どもたちに身に付けさせたい資質・能力をいかに身に付けさせるか」を窓口にして、組織的・継続的な研修が行われることが重要であり、研修の成果を教育課程や授業改善に反映させるカリキュラム・マネジメントが必要不可欠です。

関係資料

校内研修（紙資料）

校内研修（動画）

Ⅲ－５　組織運営の工夫改善はどう進めるの？

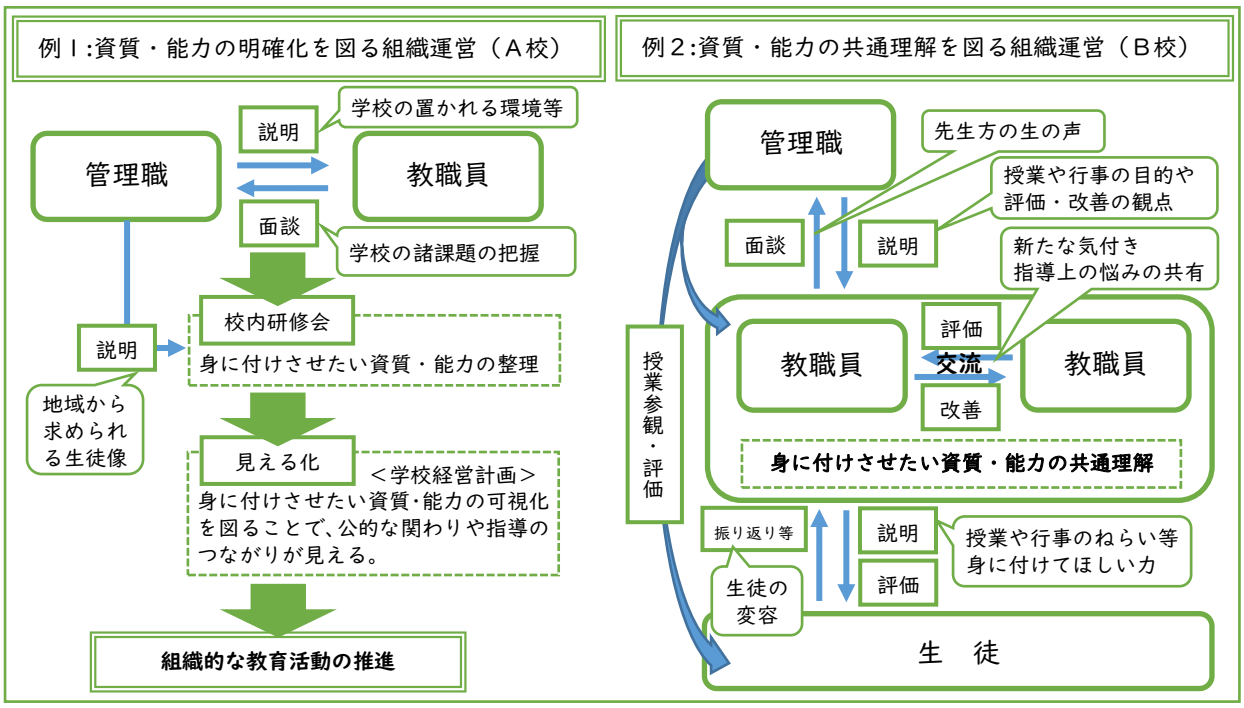
はじめの一歩

平成 30 年度に本研究所が実施したアンケート結果では、「教育課程に基づき組織的・計画的に学校の質の向上を図っていますか」という質問に対し、校種が上がるにつれて、「あまりそう思わない」「全く思わない」と回答する教職員の割合が多くなっており、高等学校では約３分の１を占めています。学校教育目標に基づいて、育成すべき資質・能力を生徒に身に付けさせるため、組織としてどのようにカリキュラム・マネジメントを進めていくかが課題となっています。

Point

・学校としての課題を明確にし、生徒に身に付けさせたい資質・能力を共有していますか。
・授業改善の方向性や行事のねらい等を学校全体で共通理解を図った上で、カリキュラム・マネジメントを意識した教育活動の評価・改善がなされています。

○　育成すべき資質・能力を明確にし、共通理解を図る組織運営の在り方



例１は、生徒に「身に付けさせたい資質・能力」を個々の教職員で思考し、地域から求められる生徒像を踏まえた上で、校内研修会で資質・能力を整理し、「見える化」を図って組織的な教育活動へつなげたことを図示したものです。例２は、管理職の積極的な授業参観や行事の教育課程への位置付け、教職員間の相互の授業見学から、生徒の変容を踏まえた授業や行事の評価・改善を行い、各教科のみならず、学校全体で生徒に「身に付けさせたい資質・能力」の共通理解を図ったことを図示したものです。

組織的な学校運営のためには、学校全体で共通理解を図る校内研修会の充実や、普段から教職員間が交流できる環境づくりが大切です。

関係資料

組織体制（紙資料）

組織体制（動画）

Ⅳ-１　教科等横断的な視点による教育内容の組立て

（１）組み立てる際に重視する観点

① 千歳市立緑小学校の実践（関連動画：Ｑ１　国語辞典の活用について）

児童の実態把握
- 読解力に課題がある。
- 語彙が少ない。
- 長文を読む力が弱い。

→ **教師の願い**
- **言語能力**を育成したい。
- 生涯に渡って学び続ける人を育成したい。

→ **具体的な取組**
「１人１冊国語辞典の活用」
どの教科にも応用できる「基盤となる力」の育成を目指している。

② 江別市立江別第一小学校の実践（関連動画：Ｑ１　教育課程の編成、実施について）

児童の実態把握
- 自分の考えはあるが、伝え合うのが苦手である。
- 筋道を立てて考える力が弱い。

→ **教師の願い**
- **自分の言葉で説明できる児童**を育成したい。
- 友達と協働し、伝え合った内容を自分の考えに生かせる児童を育成したい。

→ **具体的な取組**
「伝え合う力の育成」
- 伝え合う場の意図的な設定
- 道徳、算数を中心とした授業研究の実施
- 国語の学習内容を他教科等で活用　など

Point
教科等横断的な視点で教育内容を組み立てる際は、自校の児童の実態を把握し、育成を目指す資質・能力を教師の願いに基づいて設定した上で取組を進めています。

（２）具体の取組

○　千歳市立緑小学校の実践（関連動画：Ｑ１　国語辞典の活用について　）

１年目の取組（成果と課題）

第３～６学年において、全ての教科等の授業場面で分からない言葉が出てきた際に、国語辞典で調べる活動を行った。

【取組上の課題と解決に向けた取組】
- 国語辞典を１人１冊確保するための環境整備
- 国語辞典を児童がいつでも使用できるよう手元に常備させる必要があること。

【解決に向けた取組及び取組の成果】
- 校長を中心とした先を見通した購入計画の立案
- 常に机の横に掛けておけるよう、全児童分の国語辞典用の袋を作成（ＰＴＡ手芸部の協力）
- 国語辞典を引く習慣の定着（調べる学習の素地の習得）
- 教科等の指導について教職員間の共通理解の深化

次年度の取組へ（改善・発展）
- 第２学年において休み時間に国語辞典を引く様子が見られている実態から、１人１冊国語辞典の活用を第２学年へ拡大。
- 読書の機会が少ない児童の実態から、児童が本に親しむための環境づくり。
- 国語辞典を引く習慣の定着により予習への素地が身に付いてきている児童の実態から、全学年で予習の習慣化（学習の構えづくり）。

Point
課題を解決するために、どのような力を身に付けさせればよいか、という視点から取組を進めることが大切です。

Ⅳ-１　教科等横断的な視点による教育内容の組立て

（３）日常の授業で意識すること

○　江別市立江別第一小学校の実践（関連動画：Ｑ４　教科等横断的な視点による教育内容の組立てについて）

「伝え合う力」を育成するために、全学年全教科等において、「伝え合う場」の設定を意図的に行っています。

自力解決

【活動の留意点】

・自分の考えを他者に伝えるために、一人一人に考えをもたせる場を設定する。

少人数での交流

【活動の留意点】

・児童が恥ずかしがらずに発表できるように、ペアまたは３人組で自分の考えを伝え合う場を設定する。

全体での交流

【活動の留意点】

・自分たちの考えと他者の考えとの共通点、相違点について交流する場を設定する。

Point

学校として身に付けさせたい資質・能力を育成するために、全教職員で全体交流に向けて段階的に自分の考えを伝え合う場を設定しています。

Ⅳ-２　ＰＤＣＡサイクルの充実

（Ⅰ）教育課程の編成に係る工夫改善

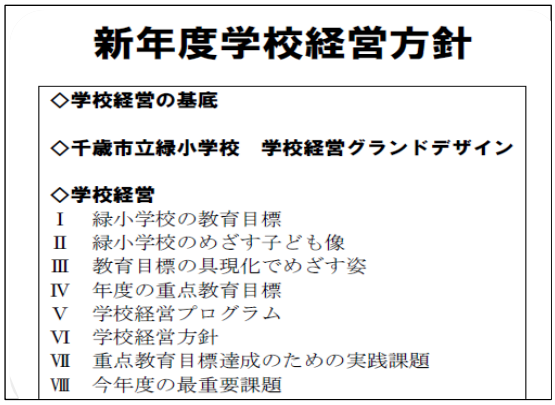
①　千歳市立緑小学校の実践（関連動画：Ｑ２　ＰＤＣＡサイクルについて）

校長は、８月に次年度に向けた改善の方針を教職員に説明します。これは、担当者が改善のために準備をする時間を確保するためです。

準備を進める中で、様々な課題が明らかになりますが、教育課程について時間をかけて教職員で話し合ったり、必要な環境整備を行ったりすることができます。教職員が自ら、次年度の取組に必要な研修を企画し、実施したこともありました。

Point

次年度の教育活動を４月から確実にスタートさせるために、教職員が教育課程の編成等について十分に準備する時間を想定した学校経営を心掛けています。



新年度学校経営方針

◇学校経営の基底

◇千歳市立緑小学校　学校経営グランドデザイン

◇学校経営

Ⅰ　緑小学校の教育目標
Ⅱ　緑小学校のめざす子ども像
Ⅲ　教育目標の具現化でめざす姿
Ⅳ　年度の重点教育目標
Ⅴ　学校経営プログラム
Ⅵ　学校経営方針
Ⅶ　重点教育目標達成のための実践課題
Ⅷ　今年度の最重要課題

②　江別市立江別第一小学校の実践（関連動画：Ｑ１　教育課程の編成、実施について）

校長は、教育課程の編成に当たって、教職員が児童に身に付けさせたいと感じている力をアンケート等で把握し、共通理解を図っています。年度当初の学校経営方針において、再度、学校全体で確認するとともに、研究部がこれらの内容に係る研究を実施し、全ての教科等で学校として身に付けさせたい資質・能力を育成することができるよう工夫しています。

Point

職員の課題意識を学校の重点として教育課程に反映しています。

また、校内研究が学校の重点目標と関連付けられ、目標の実現に向けて教職員による話合いが行われています。

Ⅳ-２　ＰＤＣＡサイクルの充実

（２）教育課程の実施に係る工夫改善

①　千歳市立緑小学校の実践（関連動画：Ｑ２　ＰＤＣＡサイクルについて）

校長は、円滑に教育課程が実施されるよう、前年度から教職員と共通理解を図り計画してきたことを、新年度の早い段階に保護者及び地域の方に説明しています。説明に当たっては、保護者や地域の方が学校の教育方針を理解しやすいよう伝える内容を精選したり伝え方を工夫したりしています。

時期	校長の取組
８月	次年度に向けた改善の方針の説明（教職員向け） ※中間評価の結果と関連させながら説明
９～11月	各種調査結果等の分析、取りまとめ
12、１月	データを基にした学校経営方針の説明（教職員向け）
２月	次年度の学校の教育方針説明会（保護者向け）
４月	学校の教育方針説明会（保護者向け２回目　ＰＴＡ総会）
５月	学校の教育方針説明会（地域の方向け）

Point

校長が自ら、学校の教育方針を学校内外に発信することで、学校、保護者、地域が同じ目標や方針の下、協力し合うことができます。

②　江別市立江別第一小学校の実践（関連動画：Ｑ１　教育課程の編成、実施について）

校長は、教育課程の実施に当たり、常に各教科等の指導事項を意識するよう教職員に働きかけています。これは、学習の流れや児童が行う活動にのみ着目することなく、単元で扱う指導事項が〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕のどの部分なのかを意識した指導を行うことで、指導と評価が一体的に行われるようにするためです。

Point

教育課程の実施を通して育成を目指す資質・能力を身に付けさせるためには、指導事項を明確にして指導を行うことが基本です。

【若手教諭の取組】

指導事項が確実に身に付いたかを見取るため、単位時間毎の振り返りを重視しています。

ティーム・ティーチングの教員とも見取りの状況を共有しています。

【主幹教諭の取組】

各種教育活動が、学校として身に付けさせたい力に結び付いているかを把握し、課題があるものは、適宜、改善策を検討し、全教職員と共通理解を図っています。

【教務主任の取組】

朝学習やチャレンジテストの結果を短いスパンで分析し分析結果を全職員で共有することで、その後の教育活動に生かすことができるようにしています。

Ⅳ-２　ＰＤＣＡサイクルの充実

（３）教育課程の評価・改善に係る工夫改善

①　千歳市立緑小学校の実践（関連動画：Ｑ２　ＰＤＣＡサイクルについて）

校長は、学校評価を基本とした年間のＰＤＣＡサイクルを確立するとともに、教育課程上の様々な行事や指導方法の改善等は、短いサイクルで評価・改善する必要があると考えています。学校全体で行っている「１人１冊国語辞典の活用」なども、児童の活用状況やそれに伴う成果を適宜、評価するようにしています。

また、学力向上担当者が中心となって、「学びのスタンダード」のレーダーチャートを全学級に掲示し、児童が自分たちの学習状況を評価しています。これにより、自らの学びを「メタ認知」する習慣を付けています。

Point

短いサイクルで評価を行うため、課題を学校評価の時期まで持ち越すことなく随時修正し、教育活動を充実させることができます。

②　江別市立江別第一小学校の実践（関連動画：Ｑ２　教育課程の評価、改善について）

校長は、日常の教育活動について、教職員にアンケート調査を行っています。これにより、中間反省や年度末の評価だけでは把握しきれない日々の教育活動について、教職員が感じていることを把握することができ、教育課程全体を評価することができます。

主幹教諭や教務主任は、児童の学習状況の把握、分析を積極的に行い、学校全体で改善策を話し合う場を設け、即改善できるよう工夫しています。

校長が行ったアンケート（一部抜粋）

【方法】重点的に取り組みたいものに〇、取り立てて重点化の必要を感じないものに×を付ける。

【項目】（一部）

Ⅰ　子どもの姿として

・仲間と協力して成し遂げる姿をさらに高めたい。
・学力を確実に伸ばしたい。
・話の聞き方や発表・意見の交流など学習に向かう姿勢をさらに鍛えたい。

Ⅱ　教職員が指導する内容として

・豊かな心を育てる教育活動をさらに充実したい。
・学力を高める取組をさらに充実したい。

Point

職員からの声をきめ細かく把握することにより、職員の課題意識や願いを踏まえた教育課程の改善を図ることができます。

Ⅳ-３　人的、物的な体制の確保

（１）具体の取組

①　千歳市立緑小学校の実践（関連動画：Ｑ３　外部人材の活用について）

「学校独自の『学習検定』実施における外部人材の活用」

【学校と家庭・地域の課題意識の共有】
「本校の児童は、基礎的・基本的な学力の定着に課題がある。」

【課題解消の方策】
学校独自の「学習検定」の実施に向けた外部人材の活用

「互いに顔の見える学校・地域」へ

【外部人材活用のメリット】
- 地域の方に協力を依頼することで、一度に多くの児童に検定を実施することができる。
- 地域の方に児童の学力形成に直接関わってもらう機会ができる。

②　江別市立江別第一小学校の実践（関連動画：Ｑ８　江別市立江別第一小学校ダイジェスト）

「児童の実態把握のための客観的データの活用」

【学校の課題意識】
「児童に確かな学力を身に付けさせるためには、児童の学習状況を正確に把握するとともに、それに基づく授業改善の方策を検討する必要がある。」

【課題解消の方策】
「児童の学習の定着度について経年で比較するためのＮＲＴの実施及び分析結果による授業改善の視点の明確化」

児童の課題に対応した授業改善の実現

Point
どちらの取組も児童が抱える課題について学校と家庭・地域間で共通理解を図ることで、解決に向けた取組を同一歩調で進めています。

【学校と各家庭における課題意識の共有】
- ＮＲＴ実施のための費用について市教委の負担分では実施できない。
- ＮＲＴを継続して実施するためには、保護者に負担していただく必要があること。

⇒学校の説明により、各家庭の理解の下、物的体制の確保につなげることができた。

（２）留意点等

○　江別市立江別第一小学校の実践（関連動画：Ｑ２　教育課程の評価、改善について）

「外部人材活用の精選」

学校評価とは別に校長が教育課程についての簡単なアンケートを作成し、全教職員対象に実施したところ、「外部人材を活用することが目的になっている」という実態が明らかになりました。

その結果を踏まえ、活用場面の精選を図り、より児童の実態に合った教育課程へと改善することができました。

Point
「外部人材の活用」は、活用することが目的ではなく、児童の実態に応じた各教育活動のねらいを達成するための手段であることを十分意識し、定期的に見直す必要があります。

Ⅳ-４　カリキュラム・マネジメントに関する校内研修の充実

（１）具体の取組

①　千歳市立緑小学校の実践（関連動画：Ｑ４　カリキュラム・マネジメントに関する研修について）

全教職員の共通理解の下、教育課程の編成・実施ができるよう校内研修を実施しています。今年度のテーマは、「学校全体で言語能力育成のために行っている『国語辞典の活用』や活用する教材について」とし、校内研修では教材を発注した会社から講師を派遣してもらいました。

Point
身に付けさせたい資質・能力に応じた校内研修のテーマを立案し、研修の充実を図るために外部講師を活用しています。

Point
身に付けさせたい資質・能力をどのようなステップで身に付けるかを共有しています。

②　江別市立江別第一小学校の実践
（関連動画：Ｑ５　カリキュラム・マネジメントに関する研修について）

校内研修では、教育課程編成の基本となる目指す児童像「人と関わり、自分を高める子ども」について教職員間で共有しています。その後、児童が「伝え合う」力を身に付けるために、どのようなステップを踏めばよいかについて検討し、３年間の研修計画を立案しました。

【１年目】自力解決する時間の保証 → **【２年目】「伝え方・受け止め方」に焦点を当てた研修** → **【３年目】「伝え合う」に焦点を当てた研修**

（２）留意点等

①　千歳市立緑小学校の実践
（関連動画：Ｑ４　カリキュラム・マネジメントに関する研修について）

校内研修の各担当が、通信等で情報を発信し、研修の進捗状況や児童の実態について共通理解を図っています。

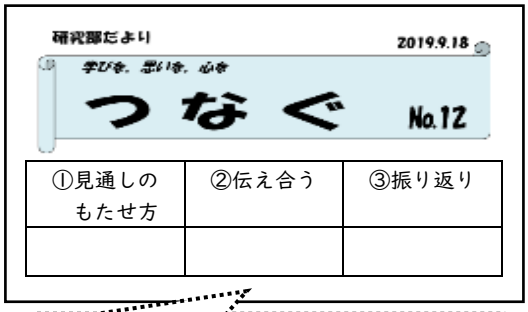
校長が「生涯学び続ける子どもの育成」というスローガンを日常的に教職員に伝えることで、理念を浸透させています。

Point
身に付けさせたい資質・能力や校内研修のねらいについて共通理解が図られるよう、根気強く働きかけを行うことが大切です。

②　江別市立江別第一小学校の実践
（関連動画：Ｑ５　カリキュラム・マネジメントに関する研修について）

校内研修では、定期的に「伝え合う」力を身に付ける指導の成果や課題について全教職員で確認しています。

研修を推進する際には、理論を学ぶ機会も大切にし、理論をいかに授業改善につなげるかを意識して授業研究を行っています。



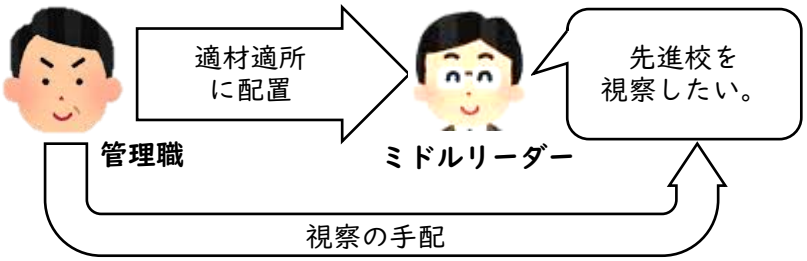
Point
研修部だよりを活用して、指導の成果や課題を確認しています。

Ⅳ-５　組織運営の改善

（１）具体の取組

①　千歳市立緑小学校の実践（関連動画：Ｑ５　組織運営について）

自校が抱える課題解決のために、自ら新たな学びを吸収し、解決の方策を見いだすことができる教職員を適材適所に配置しています。このような意欲の高い教職員からは、視察の要望等が主体的に出されることがあり、管理職自ら視察の手配をしています。

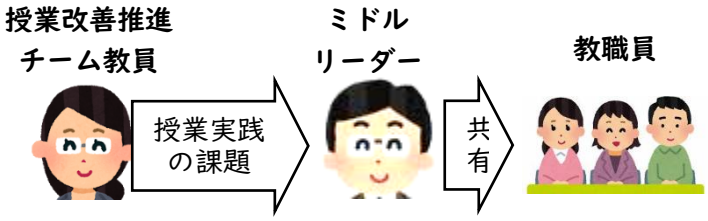


Point
管理職は、教職員の意欲を引き出すよう、目的を明確にするとともに、研修の機会を保障しています。

②　江別市立江別第一小学校の実践

学校に配置されている授業改善推進チームを効果的に活用するための体制づくりを行っています。

また、担任外の教員が週１回情報交換を兼ねた昼食会を行い、気になる児童の情報共有をしています。必要に応じて、学級担任等へ連絡するなど、情報共有の仕組みが確立されています。



昼食会メンバー
- 管理職
- 主幹教諭
- 担任外教諭
- 養護教諭
- 心の教室相談員
- 指導部主任兼特別支援コーディネーター
- 特別支援支援員
- 授業改善推進チーム教員

（２）留意点等

①　千歳市立緑小学校の実践（関連動画：Ｑ５　組織運営について）

組織マネジメントを進める上で、他校で行っている教育実践をそのまま自校に取り入れるのではなく、自校でできることを教職員に模索するよう促しています。

また、目的を達成するために教職員が同じ方向を向く（ベクトルを揃える）意識があるかないかで、同じ取組でも成果が大きく変わることから、共通の目的をもたせることを意識しています。

②　江別市立江別第一小学校の実践

校内体制づくりでは、特に、ミドルリーダーをどのように生かしていくかを意識した教職員の配置を行っています。例えば、初任段階教員を校務分掌のチーフにし、そのサポート役にミドルリーダーを配置することで、初任段階教員とミドルリーダーがそれぞれのキャリア・ステージに応じて成長できるようにしています。また、管理職が校務分掌のチーフに業務を割り振るとともに、主幹教諭が間に入り業務のマネジメントを行っています。

Ⅴ－Ⅰ　管理職

（Ⅰ）カリキュラム・マネジメントの充実に向けて心掛けていること

①　江別市立江別第三中学校の実践（関連動画：Q16　管理職の役割について）

生徒にどのような資質・能力を育成する必要があるのか、根拠となる各種調査等を基に分析し、学校課題を教職員と共有しながら、カリキュラム・マネジメントを進めることを大切にしています。

現状・課題	改善策
・〇〇調査では、教科全体の平均は□.□で全国とほぼ同じである。 ・領域別では「話す・聞くこと」は□□／〇〇、「書くこと」は□□／〇〇と全国平均を上回っている。 ・「読むこと」領域の「文学的な文章を読む」の内容が□□／〇〇と全国よりやや低い。	・引き続き、「話す」「聞く」「書く」場面を意図的に設定し、育成を目指す資質・能力を身に付けることができるよう、単元の指導計画等を工夫する。 ・「文学的な文章を読む」力を高めるために、文章を読む視点を明確にした授業づくりに努める。 ・努力を要する生徒の手立てとして…… **Point** 各種調査等から現状と課題を分析し、生徒に身に付けさせたい資質・能力を育成するための改善策等を教職員と共有しながら進めています。

②　北広島市立西部中学校の実践（関連動画：Q20　管理職が心掛けるとよいことについて）

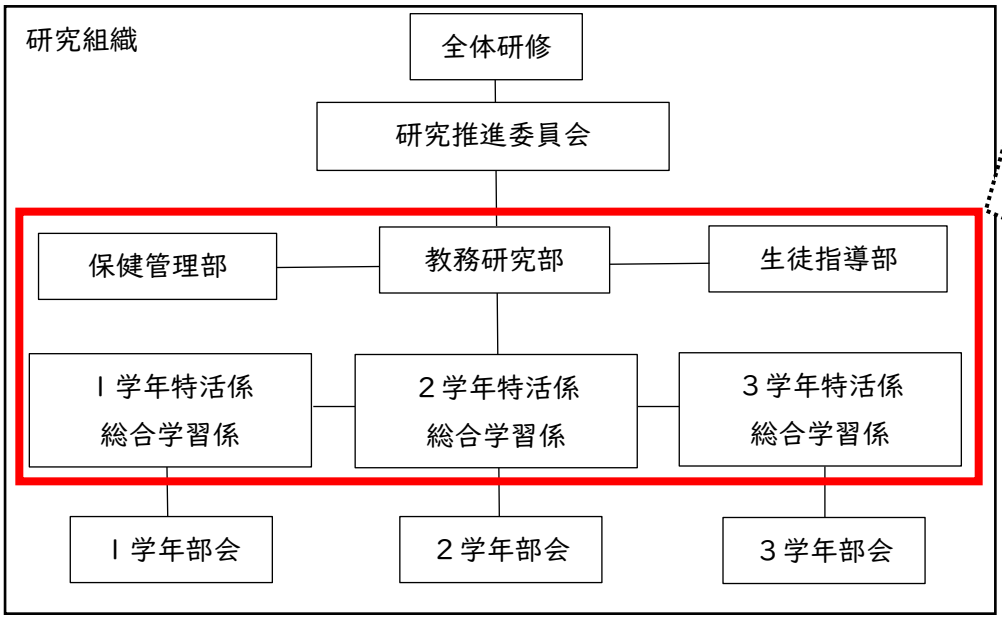
学校経営方針の理解促進や教育課程の円滑な編成や実施が行われるよう、管理職間の連携を図り、方策等を検討しています。また、ミドルリーダーを活用しボトムアップするなど、一人一人の教職員が、組織の一員として学校経営参画意識をもてるよう、工夫しています。

Ⅴ-２　ミドルリーダー

(１) カリキュラム・マネジメントの充実に向けて心掛けていること

①　江別市立江別第三中学校の実践（関連動画：Q24　ミドルリーダーの役割について）

目指す生徒像の実現や学校課題の解決に向けて、組織的かつ能動的な研修や授業実践を積み上げるために、ミドルリーダー同士のつながりを大切にしながら、教職員の指導力向上に努めています。

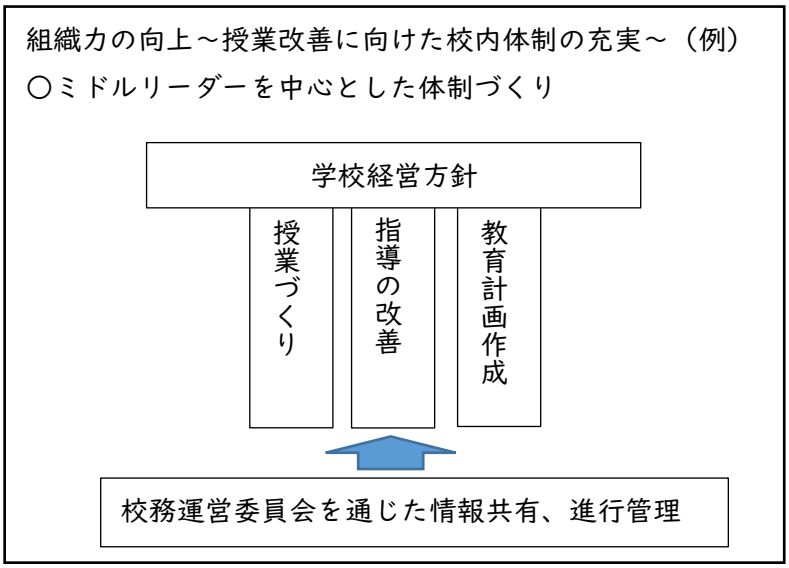


Point

校内研修にミドルリーダーが積極的に関与できるよう、分掌部会、学年係担当者にミドルリーダーを位置付け、縦と横のつながりを大切にしながら進めています。

②　北広島市立西部中学校の実践　（関連動画：Q20　管理職が心掛けることについて）

持続可能な教育活動を展開するために、ミドルリーダーを中心とした組織的な連携を大切にしています。組織的な取組を推進するために、管理職とミドルリーダーが連携しながら事前の準備を丁寧に行い、教職員一人一人の意見を聞き取りながら、学校課題について教職員の議論を促すなど、教職員同士をつなぐ役割を大切にしています。



Point

学校経営方針の具現化に向けて、ミドルリーダーが教育計画の作成や授業づくり、指導の改善について提案したり、校務運営委員会に所属し、ミドルリーダー同士の情報共有をしたりする取組を大切にしています。

Ⅴ-３　若手

(1) カリキュラム・マネジメントの充実に向けて心掛けていること

①　江別市立江別第三中学校の実践（関連動画：Q25　若手教員の役割について）

教材研究の方法や基本的な指導技術を身に付ける等、指導力向上に努めています。そのために、授業を先輩教員に観察してもらい指導を受けるとともに、他の教員の授業を積極的に観察し、自身の授業改善に生かすことを大切にしています。

授業を見る視点（例）
1　教科等横断的な学習の場面を取り入れた授業となっていたか。
2　「学び合い」を取り入れた学習場面の設定がされていたか。
3　「授業の流れ」を意識した授業展開となっていたか。
(1) 導入
(2) 課題提示（教科の課題／汎用的な能力で身に付けさせたい力）
(3) 課題解決に向けての手順、方法
(4) 自力解決（課題解決）
(5) 交流（学び合い）
(6) 振り返り
(7) 評価（教科の課題について／汎用的な能力で身に付けさせたい力について）
(8) 定着（学んだことを定着させるための課題等）

Point
授業を見る視点を基に自身の授業を振り返ったり、先輩教員に助言をもらったりしながら授業力向上に努めています。

②　北広島市立西部中学校の実践（関連動画：Q21　若手教員が心掛けるとよいことについて）

初任段階教員が２校目でも活躍できるように組織的に育成するとともに、若手教員が発言しやすい雰囲気づくりに努めています。初任段階教員は、先輩教員に授業づくり等の相談をしたり、授業に対する助言をしてもらったりすることを通して、先輩教員から指導技術を学びながら自身の授業力向上を高めることを大切にしています。

○　組織体としての協働体制を確立し、互いに研修し学び合う学校			
実践内容	①　全教職員での課題意識の共有 ・課題の明確化と目標達成へのベクトルの一致		○　学校教育目標、経営方針の共有化 ○　ＲＰＤＣＡサイクルに基づいた目標管理の確立 ○　学校経営プログラムの有効的な活用 ○　自己目標シート、面談等による目標、方策の明確化
	②　組織体としての協働体制の確立 ・教職員の主体性の尊重と支え合う同僚性の発揮	具体の方策	○　学校経営参画意識の向上 ○　組織としての方向性が明らかになる協議の運営 ○　各学年・分掌間の連携、共通理解、共通行動の取組 ○　悩みを相談し、協力して解決できる集団づくり
	③　教師力を高める研修の充実 ・授業力、生徒指導力を高める研修の確立		○　授業力を高める研修の充実 ・全員公開授業の実施 ・外部人材等の活用や得意分野を生かしたミニ研修の実施 ○　生徒指導力を高める研修の充実

Point
分からないこと、困ったことを先輩教員に相談したり、先輩教員に授業を見てもらったりするなどしながら、自身の授業力向上に努めています。

平成30・31年度　教育活動の質の向上を図る
カリキュラム・マネジメントに関する研究　報告書

研究協力校　千歳市立緑小学校、江別市立江別第一小学校、北広島市立西部中学校
江別市立江別第三中学校、岩見沢東高等学校、野幌高等学校

学識経験者

横浜国立大学　髙木　展郎　名誉教授
國學院大學　田村　　学　教授

北海道立教育研究所
北村　善春（所長）
櫻井　良之（副所長）
石原　　学（企画・研修部長）
田中　孝二（企画・研修部研究主幹）
竹見　　純（企画・研修部主査）
石川　博史（　　〃　　）
木村　栄治（企画・研修部研究研修主事）
森田　雅彦（　　〃　　）
岡本　麻紀（　　〃　　）
髙木志磨人（　　〃　　）
笹子　　学（研究・相談部主査）
大井結厘子（　　〃　　）
小野　智希（研究・相談部研究研修主事）
浅部　航太（　　〃　　）
木村　一貴（附属情報処理教育センター研究研修主事）
石井　　亮（附属理科教育センター研究研修主事）
浅野　寿紀（　　〃　　）

令和２年３月　発行
発　行　者　北海道立教育研究所
（〒069-0834 江別市文京台東町 42 番地　TEL011-386-4513）
発行責任者　北海道立教育研究所長　北　村　善　春